

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4793400039		
法人名	株式会社スリーピース		
事業所名	グループホームとことん		
所在地	沖縄県島尻郡与那原町字板良敷161-5		
自己評価作成日	令和4年 3月 20日	評価結果市町村受理日	令和 4年 6月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvsoyCd=4793400039-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	令和4年 4月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人ひとりに合わせた適切なケアを行うため、職員が「個別介護計画書」を作成し、実施から評価までを行っている。2年ほど前から続いているコロナウィルスの影響により、大々的に活動する事は叶わなかったが、人気の少ない場所を探し、屋外での活動を定期的に行っている。楽しみながら「動く」事で身体機能低下防止を図り生活意欲の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「利用者が笑顔で生活が送れるよう、地域や家族と共に支える」等の法人理念のもとに、職員も笑顔、利用者も笑顔をもっとに支援している。事業所は、地域の一員として自治会へ加入している。コロナ禍で感染予防のため、外部との接触を極力避けている状況の中、利用者の希望により、町内や近隣地域へ気分転換も兼ねドライブを行い、車内から住み慣れた地域を見ながら会話を楽しんでいる。日々の支援では、利用者の生活歴を鑑み、菜園でミニトマトや玉ねぎ等の野菜を作り、利用者と一緒に収穫し、サラダや料理を準備して利用者と職員が一緒に食卓を囲み、同じ食事を食する等、グループホームとしての家庭的な生活を利用者とともに実践している。就業規則も作成され、法人では職員のストレスチェックが行われている。代表は、産休明けの職員に対し、保育園へ入園するまでの間、子どもと一緒に出勤し、業務が行えるよう配慮している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に「その人がいつまでも笑顔」で日々の生活を過ごす事が出来るよう、職員全員で考察し作成したスローガンも共に毎月1回の勉強会で再確認し、留意しながら実践に繋げている。	理念の共有と実践については、法人理念を事業所の理念とし、利用者が笑顔で生活が送れるよう、地域や家族とともに支えることが明示されている。日々の支援では、職員も笑顔、利用者も笑顔をモットーに対応するとともに、利用者の生活歴を鑑み、野菜作りや収穫、台所での一緒に調理、衣類の洗濯など、家庭的な生活を利用者とともに実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホームの立地は高台にあり、舗装されていない坂道などが多いことから徒歩範囲での地域との交流は多くない。だが町や区などの市場、またその人の馴染みのある場所などを特定し、社会参加へと繋げる事を努めていたが、今般のコロナウィルス感染予防のため社会参加等は自粛している。	事業所と地域とのつきあいについては、地域の一員として事業所が自治会に加入している。コロナ禍で感染予防のため、外部との接触は極力避けている状況の中、利用者の希望により、週2回程は町内や近隣地域へ気分転換も兼ねてドライブを行っている。車内から住み慣れた地域を見ながら皆で会話を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校などで認知症に関する勉強会や近隣にある専門学校からの実習生受入を行ない、認知症を理解して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回の運営推進会議を開催し、利用状況やご利用者の日々の生活状況、諸活動の様子、そこで頂いた意見を反映させ、施設全体のサービスの質向上へ繋げていたが、今年度も前回に引き続き、コロナウィルスの影響により書類での報告を行った。	運営推進会議を活かした取り組みについては、コロナ禍で蔓延防止のため会議開催が自粛されたことから、外部の構成員の方へ2か月に1回、事業所の状況等を郵送で報告し、意見を求めることで議事録作成が行われている。記録からは、事業所の状況報告が主な内容となっていることから、通常の会議開催ができない場合における、委員からの意見を引き出す工夫を期待したい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前回に引き続き、コロナウィルス感染予防の為、直接会うことを避け、電話やFAX、メールなどにて連携を図っていた。	市町村との連携については、コロナ禍で蔓延防止のため、法人や事業所の方針として、行政へ出向くことや人との交流を自粛する対応がとられている。委員である行政担当者へは会議内容を郵送している。行政や広域、医師会等からメール等で研修案内や情報をもらい連携している。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束について学び理解している。玄関の施設や言葉がけにも日々気を付け、一人ひとりに合ったケアに繋げている。	身体拘束をしないケアの実践については、身体拘束適正化のための指針が作成され、指針に則り拘束をしないケアに取り組んでいる。3か月に1回、職員と運営推進会議委員の知見者が参加し、身体拘束適正化委員会が開催され、会議録も記録されている。会議内容は、運営推進会議での報告や他の委員から意見を求める等にも期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待及び権利擁護について、3ヶ月に1回の身体拘束の研修で学び、虐待防止に努めている。	虐待の防止の徹底については、事業所内での日々のケアにおいて、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。具体的には、身体拘束適正化委員会の検討会議時、接遇やスピーチロック、不適切なケア等について、DVDを見ながら勉強会を行っている。職員は毎年同じDVDを視聴することで、初心に立ち戻り日々のケアを再確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、深く学ぶ機会が少なかった為、来年度の定期勉強会に盛り込んでいく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に本人のもとへ訪問し、本人の状態を確認しながら、ご家族へ利用契約書や重要事項説明書の大まかな説明を行い、利用開始にあたり不安や疑問等を聞き出すことが出来ている。本契約時には再確認と説明を十分に行い利用開始に理解と納得を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで意見交換ができる場を設けたり、意見箱や外部機関もある事も伝え、意見しやすい雰囲気作りを心掛けている。また、家族の面会の際は、コミュニケーションを図り、悩みや困りごとなど聞き出せるよう努めている。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、畑仕事に興味を持っている利用者の意向を受け、10月頃に隣の空き地を開拓し、畑として整備している。職員は、利用者と一緒にミニトマトやピーマン、キュウリ、タマネギ等の野菜を作って収穫し、食卓にサラダとして提供している。家族とライン電話等でやり取りし、靴等の買い物を依頼される場合は対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員ミーティングや、管理者専用のレターケースに意見書を投稿できるよう環境を整えている。また、SNS等を利用した個別での相談窓口も設け、誰でも気軽に発言できるようにしている。	運営に関する職員意見の反映については、職員ミーティングをはじめ、管理者等へ意見が言える仕組みが整備されている。夜勤者の勤務時間を変更することで、フロアの見守りを夜勤者に行ってもらうことや、早出や日勤職員の朝礼時間が十分に確保されることで丁寧な申し送りとなり、より良い利用者支援に繋げている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回プリセプターや面談を行い、介護職一人ひとりの自己の課題を抽出し、反省と解決方法を一緒に見出している。また社内外研修へも参加してもらい知識研鑽に努め、資格取得等のサポートも行っている。	就業環境の整備については、就業規則が作成され、労働安全衛生法で義務付けられている健康診断を実施している。法人で職員のストレスチェックが行われている。代表は、産休明けの職員に対し、保育園へ入園するまでの間、子どもと一緒に出勤し業務が行えるよう配慮している。就業規則にパワハラ等の追加も期待したい。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、社内教育担当者や外部講師を招き定期勉強会を行い、専門的知識と技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまではグループホーム連絡会や地域会議、県外の同業者との交流、養成校や介護福祉士会などの職能団体を通じて情報交換を行い、サービスの質の向上に向け積極的に活動参加していたが、今年度はコロナウィルスの影響により参加できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される際、本人がどのように過ごしたいか、聴取し、不安や要望に耳を傾け本人の意向に寄り添い安心して生活が送れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、本人にどう過ごしてほしいか、家族の要望や不安点を聴取し、本人、家族共に安心して施設生活を送る事が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に面談を行い、今何が必要な支援なのかを判断し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴、性格、力量に応じ得意分野を引き伸ばしていき、また不得意な事は介護職や他者と一緒に互いに助け合いながら生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家族と密に連携を図れるよう努め、承諾を得ている家族とはSNSを通じ日頃の利用者の様子を伝える事で、離れて暮らしていても身近に感じて頂けるよう、家族間の関係を良好に保てていると考える。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を徹底しながら、一部の利用者において、これまで交流のあった方達とのふれあいや、馴染みのある環境へ訪れる事で、認知症患者以前の生活に近づけられるよう努めている。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、事業所入居後も馴染みの美容室へ定期的に通っていた利用者が、コロナ禍で行けなくなったため、外出自粛の利用者の気持ちに配慮し、元美容師で調理担当パート職員がカットしている。利用者の馴染みの漁港や「えびす通り」、「東浜」等、ドライブ時に行くようにしている。家族や馴染みの方の訪問は、玄関先の面会等で対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いにより、他者との関わりが上手く図れない方に対し、介護職が介入する事でコミュニケーションが円滑に進むよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じてご家族様や、関係機関との情報交換、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成や修正の際は、本人の意向を聞き取りし、把握に努めている。困難な場合は、ご家族などから情報収集し、本人の生活に合った支援になるよう検討している。	思いや意向の把握については、アセスメントシートに、利用者の「たまには仕事に出かけたい」、家族の「できることは本人にさせてほしい」等、本人及び家族の意向が記入されている。職員は、意思表示が可能な利用者の意向に添って、役割を見つけるとともに、日々の生活の中で、何気ない会話や筆談等で利用者の思いを汲み取り、日々の支援に活かせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報、また、これまで関わりのあった他施設からの情報を収集し職員全体で把握し、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活に近づけられるよう一人ひとりの生活因子を理解し、心身の状態に応じその人らしく生活を送れるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月利用者を選定し、ケアミーティングを行い、心身の変化などを話し合い、その時の状況に応じた個別ケアが実践できるよう努め、その内容をケアプランに盛り込み、実施から評価に繋げている。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、長期目標を1年、短期目標を半年とし、モニタリングも実施している。毎月ミーティングで利用者の状況について確認し、「家にいたときみたいに関わりや将棋を楽しみたい」の目標、支援内容として、お茶くみや食事等の配膳の役割等が、介護記録に実施状況として記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別日誌に記録し、送りノートやSNSを利用し、職員間で情報共有を行い支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況も汲み取り、出来る限りニーズに応えられる様、臨機応変に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地域の祭りや町主催の行事に参加したり、イベントへ外出し、地域との交流が途絶えないよう支援していたが、今年度もコロナウィルスの影響により社会参加ができていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が信頼する医師や病院を選択して頂いている。また要望に応じては推奨する医療サービスの提案も行っている。	利用者はこれまでのかかりつけ医を継続し、家族が通院介助を行っている。受診連絡表と健康チェック表をもたせ、医療機関から診察結果の報告書をもっている。血液検査も年1回行われ、健康状態を確認している。訪問診療の利用者は1人で、月2回の受診がある。事業所の看護師が週1回利用者の健康管理や服薬管理を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師と共に、日々の情報共有と毎日の変化を報告し合える環境作りに努めている。訪問診療を契約しているご利用者の緊急時には24時間体制で連絡が取り合える体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室を中心に情報交換や情報共有を行い、連携を取っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期において、当グループホームで可能なケアやサービスについて入居前に説明を行っている。入居後もご家族、本人とどのように終末を迎えたいかを話し合い、希望に添えるようにしている。	看取り指針を作成し、ターミナルケア、精神的ケア対応マニュアルを整備している。入居時に終末期の意向確認をし、利用者は心肺蘇生（DNAR）の意思確認書を提出している。訪問診療や看護師の24時間オンコール体制がある。今年1月看取りを行い、エンド・オブ・ライフケアも実施している。看取り時の手引きとして、「旅立ちの時の変化」をタイトルとしたフローチャートを作成している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の初期対応が出来るよう、法人内でも外部講師を招き、座学や演習を勉強会にて行っている。	事故発生時、緊急時対応マニュアルを整備し、緊急時の関係機関の連絡先も作成されている。事故の発生はなく、ヒヤリハットの報告書が作成され、事故再発防止検討会議も実施されている。高齢者の急変時の対応について、法人勉強会等で学習している。救急連絡シートを作成し、緊急時には医療機関に提供している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的に実施している。	自主防災訓練、沖縄県全体防災訓練を実施し、職員間で非常食や水など必需品等の再確認を行っている。また、感染予防対策について社内勉強会に加え、南部医師会主催の感染対策研修会に参加し、研鑽に努めている。	自主防災訓練で昼間想定避難訓練を実施し、行政主催の地震津波防災避難訓練にも参加している。消防計画や緊急連絡網も作成されている。水や食料等の備蓄を行い、年1回は確認をしている。これまで夜間の避難訓練が未実施となっている。夕方の時間帯に避難訓練を行いたい意向があるが、実施に至っていない。業務継続計画等の作成は今後の取り組みとなっている。	夜間想定避難訓練を消防署協力のもと、早め実施することが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの 人格 の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行い、自尊心を傷つけない対応を行っている。利用者中心の生活が送れるよう心掛けている。	重要事項説明書に利用者一人ひとりの人格及びプライバシーの尊重を明示している。利用者の声かけ支援が大事で、言葉選びに気をつけ、不適切なケアをしないよう職員間で注意を払っている。法人の就業規則に守秘義務が記載され、個人ファイルは鍵付きの書庫に納められている。法人勉強会でコミュニケーション技術について学習し、利用者の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、今何がしたいか等の思いや希望が叶えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し、本人のペースに合わせ、その人らしい生活に近づけられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出だけではなく、起床時から整容セットを洗面台に用意し、自由に使用して頂き、メイクなどの支援も行っている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の提供や調理が得意な利用者と一緒に準備をしている。	食事は、3食事業所で調理を行っている。昼食は調理専属の職員が行い、朝食と夕食は職員が交替で対応している。利用者4人が食材の下ごしらえ、調理、食器洗いに積極的に参加している。菜園で育てたナスや玉ねぎ、キュウリ、トマト等も食材にしている。配食業者を利用したり、利用者の希望でラーメンやハンバーガーを食べに出かけることもある。職員も一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の把握に努め、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。習慣化され、介護職の声掛けなくとも自ら実施できるご利用者もいる。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的にこれまで送ってきた生活同様に、排泄障がいがあっても、支援を加える事で、トイレでの排泄行為が行えている。	排泄の自立支援については、入居前の状況や排泄チェック表で排泄パターンを把握するとともに、利用者一人ひとりの身体状態に配慮しながら、日中は、トイレでの排泄支援を行っている。夜間は、利用者の状態に応じ、部屋でのポータブルトイレやオムツ使用、トイレでの排泄も支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や利用者本人からの自己申告を基に、個々の排便リズムを把握し飲食や運動に工夫を凝らして、予防に取り組んでいる。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせて入浴時間は定時で設けていない。だが状況に応じ、入浴促しの声掛けは行っている。	入浴は週3～4回を基本としているが、利用者の状況に応じ、入浴時間を決めずに柔軟に対応している。畑仕事をする利用者は夕方入浴するのが日課となっている。汚れていないと拒否する利用者には、声かけのタイミングや職員を変えて支援している。男女とも同性介助を基本としているが、できない場合は利用者の同意を得ている。タオルをかける等、羞恥心に配慮した対応をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い日が予想されるなど、就寝前に温かい飲み物を提供したり、マッサージしたり、眠りやすい環境を整えてから、就寝に就いていただいている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報について、全職員がいつでも確認が出来るよう書類を整えている。だが薬に対し、全体的に職員が把握できてはいない。また、状態変化等があれば主治医に報告し調整して頂いている。	服薬管理マニュアルや服薬手順書が作成され、服薬管理は看護師、主任、副主任が行っている。朝・昼・夕・就寝用の薬セット表を作成し、配薬、与薬ごとに確認者がサインをしている。服薬事故はない。状態変更時は薬の変更を含め医師に報告をしている。勉強会で、看護師が薬の理解について説明を行っている。壁に掲示している服薬手順書に、誤薬発生時の対応についての追加記載を期待したい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を持って頂き活動する事で、生活意欲を高め、維持している。また気分転換に週二回以上の外出が行われている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に設けていないが、当施設でのサービス内容の中に「マンツーマン支援」があり、本人の希望に合わせて一日を通して支援活動を行っている。	ウォーキングとして事業所附近の散歩に、車椅子や歩行器で参加する利用者もいる。利用者の多くは週2～3回、車2台で、中城公園、馬天港、伊計島、奥武島等へ出かけている。人混みを避け、気分転換を楽しみながら体力の維持に努めている。マンツーマンドライブでは、利用者の希望で、自宅に同行することもある。外出できない利用者は、庭で外気浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身が持参しているお金もあるが、ほとんどの利用者が施設に預けている。「利用者のお小遣い」をそれぞれ小口袋に入れ外出時に利用者それぞれに持って頂き買物等を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和4年 6月6日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	介護職は「いつでもご家族と連絡取れますよ」と声掛けを行い、実際に電話で会話したり、ご家族と都合が合う時はテレビ電話にて、家族との繋がりを感じてもらっている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや各居室において、季節の創作や飾りつけを行い、ご利用者や家族に楽しんで頂いている。室温、湿度等もその都度調整し、過ごしやすい環境になるよう整えている。	リビングは季節の飾り付けがなされ、壁面にはみんなで制作した豪華なしだれ桜の絵が飾られている。テレビは2か所に設置され、好きな場所で見られるよう配慮している。歌や踊り、ゲームやボール遊びをして、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。調査当日は、職員が赤ちゃんを連れて出勤しており、利用者も関わって、「泣かないよう」とあやしたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにて複数のソファを設置し、本人が好きな所でくつろげるよう努めている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるモノを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。配置等も本人や家族に行って頂いている。	居室は電動ベッド、キャビネット、エアコン、カーテンが設置されている。利用者は馴染みの家具を持ち込み、壁には、家族写真や職員が作成している広報誌「とことんだより」が飾られている。転倒リスクの高い利用者には、センサーが設置されている。居室入口にはポストが設置され、元日の朝は年賀状が届く等、利用者が楽しめるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事やわかる事などを含め、介護職が本人の能力を把握し信じる事で、残存機能を活かした環境を作ることが出来ている。		